

村田奈々子
Nanako Murata

食べた、太った、走った

～私のギリシア料理体験



る。

四月のはじめ、アテネからバスで約二時間、ペロポネソス半島の北東に位置するアルゴスという町の、ギリシア人家庭を訪れた。ちょうど復活祭の直前で、家の納屋には、肉屋から買ってきたばかりの、毛を刈られた子羊が二頭、天井からぶらさがっていた。復活祭の日曜日に、丸焼きにされる羊である。

ギリシア正教徒のギリシア人にとって、復活祭は、クリスマスよりも重要なお祭りだ。日本でいうなら、お正月に相当するといってもよい。だから、子羊の丸焼きは、日本人にとってのおせち料理なのである。

アテネやテッサロニキのよいうな、アパートが建ちならぶ大都市の中心部で、羊を丸ごと焼くのはなかなか難しいが、都市の郊外や地方の一軒家では、それ専用のスペースを庭に設けているところが少なくない。この時期は、色とりどりの野生の花が咲いたひろびろとした野原で、羊を焼いている光景に出くわすこともある。子羊は串刺しにされて、何時間もかけてこんがり焼かれる。羊の内臓は、器用に串巻きにして焼いたり、マギリツァと呼ばれるスーブの材料にする。これもまた復活祭の伝統料理には欠かせない。羊の脳みそも、無駄にはしない。脳みその焼き物は珍味のひとつだ。復活祭前の四十日間、肉を口にすることを慎んできたギリシア人たちは、「迷える子羊」を丸ごと食べ尽くす。復活祭の日曜日は、酒を酌み交わし、羊をほおびりながら一族団圓の時間を過ごす。

とはいえ、これはお祭りの時の、特別な料理のほなし。毎日羊を丸焼きにして食べているわけではない。それは、時間的にも予算的にも、とても無理だ。では、ギリシア人は普段は何を食べているのだ

ら。ギリシア料理といえば、日本人がまず思い浮かべる、ナスと牛の挽肉を何段か重ねて焼いた、オリブ油たっぷりのムサカ（ギリシア語ではムサカス）ばかりが、ギリシア料理ではない。さっぱり味のギリシア料理もある。そのさっぱり味の立て役者は、なんと、日本でもレモンだ。日本でも暮らしていると、料理に添えられるレモンといえば、薄いスライス一枚程度と思ってしまうが、エーゲ海の気候に恵まれ、レモンの栽培地であるギリシアでは、レモンはもっと豊富に、豪快に使われる。たとえば、塩と胡椒で味つけて焼き、半個ぶんのレモン汁をたっぷりしぼりかけただけの豚ステーキは、素朴なギリシアの味だ。ミートボールにレモン風味のたまごソース（アウゴレモノ）をとるりとかければ、不思議な味のとりあわせと、そのおいしさにびっくりするだろう。焼き魚やイカリング、そして天日で干して、炭火で焼いたタコにもレモンはかかせない。ギリシア風でんぶらともいえる、揚げたズッキーニ（コロキサーキヤ・ツイガニタ）とレモンも、ばっちりの相性だ。

ギリシア人はお米も食べる。トマトやピーマンの中心をくりぬいて、そこにお米と挽肉を詰めてオーブンで焼くゲミスタは、家庭料理の定番。口の中で、トマトの酸味と、ピーマンのがみが、詰め物の味とほどよく混じり合う。ぶどうの葉でお米をつつんだ、一口サイズの俄型のドルマデスは、冷たいおつまみの代表格だ。鮭をつまむような感覚で、食べられるのがなんと素晴らしい。スーパーに行けば、缶詰でも売っている。この料理の起源は、アレクサンドロス大王時代にまで遡ると聞かされたことがあるが、真偽のほどは定かではない。

ギリシアのお酒については、ちょっと書いておこう。レツィーナという松ヤニ風味の白ワイン。かなり独特のクセがあるけれど、これを、乾燥したギリシアの風を顔に受けながら飲むのは、幸せの極みだ。水を入れると白濁する蒸留酒ウソより通好みのなのは、ツイプロと呼ばれるギリシア版ブランデー。ただし、これを観光客相手のレストランで見つけるのは難しいかもしれない。そもそも家庭で作るお酒だから、ギリシア人と友達になることが、このお酒を手に入れるための一番確実な方法だろう。「よそ者」にはなかなか譲ってくれない、貴重なお酒だ、ということでもある。アルコール度数はさまざまだが、五十度を超えるのがほとんど。これが、酒好きにはたまらない。ギリシア人の友人が、はるばるギリシアからツイプロを我が家に運んでくれた時、たまたま居合わせたパステリス好きのフランス人が絶賛した、と言えどどんな味なのか想像してもらえないだろう。

日本の家庭でも簡単にできるギリシア風料理として、私がおすすめるのは、コトスーバだ。我流だが、簡単な作り方を紹介しよう。水を満たした大きな鍋に、鶏を一羽まるごと入れ、ダシをとる。このとき、できるだけお鍋を沸騰させないように注意すること。ダシをとり終えた鶏は適当な大きさにほくし、骨を取り除く。あとは、ニンジン、タマネギ、ジャガイモを小さめに切って入れる。このときセロリを入れると、おいしさが一段とアップする。野菜が溶けるくらいまで煮込み、塩と胡椒で味つけて、最後にレモンをお好みの量しほればできあがり。こはんを入れてオジヤ風にするのもいい。

ギリシア料理の問題点を、最後にあげておこう。ギリシア料理は、おいしい。でも、ギリシア料理はかりの生活を続けていたら、確実に太る。実際、私は留学中の半年で五キロ太った。これは尋常な太りかたではない。ギリシア料理で太ったなら、ギリシア的な方法で痩せてみるのはどうだろう。毎年十一月のはじめに、一般人が参加できる国際マラソン大会がある。マラソンの語源となったマラソン村から、第一回近代オリンピックが開催されたアテネのオリンピック・スタジアムまでのコースである。一念発起して参加した私は、四時間四十二分でゴールした。記録としては、決して自慢できるものではないが、重要なのは、五時間弱で二キロ痩せたという事実である。

このマラソン・コースは八月に開催される、アテネ・オリンピックのマラソン・コースとほぼおなじだ。最近太り気味で、ダイエットしなくてはと考えている人は、テレビでのマラソン観戦を楽しみつつ、心ひそかに、コースのチェックをしておくのもいいかもしれない。

（筆者近現代ギリシア史専攻）

愛読書という。与野党政治家とも、「いにしへの為政者」ではなく、「いにしへの反逆児」に自らを重ねているらしいのだ。例外は小沢一郎で大久保利通ファンというもおかしかったが、平成の政治家には自分が国家権力だという意識が薄れているのではないかと著者はいう。岸、佐藤、中曽根らの世代は少なくとも歴史小説ではなく歴史の「生証言」を読んでいたと、政治家に絶大な支持層をもつ作家で、もうひとり欠かさないのは司馬遼太郎だ。政治家は歴史をつくるのが商売だから歴史に興味を持つのである。でも、司馬史観は物語に加工された歴史。『坂の上の雲』の感覚で戦争が準備されている可能性もあるかと思うとぞっとしない。真偽のほどは不明だが、愛読書を問われたブッシュは「新聞」と答えたそう。選挙公報にも候補者の愛読書を書かせる欄を設けたらどうか。学歴なんかより参考になるんじゃないか。ま、それなら彼らは「愛読書詐称」もしかねないけどな。（洗）

村田奈々子著
『ギリシア語のかたち』
まずは自分の名前をギリシア語の文字で書くことから始めて、街角の看板やメニューなど、クイズや写真で遊びながら何でも読んでしまおう。旅行の楽しみも倍増！
定価1365円（本体1300円）
【シングルCD付】

愛書狂

昨年12月にサダム・フセインがテイクリットで拘束されたとき、彼が隠れていた穴蔵からアラビア語の『罪と罰』が出てきたという話がある。これには後日談があつて、いやあれは『地下室の手記』だったんだよ、という新説を唱える人がいた。話としてはそっちのほうがおもしろい。どちらにしても彼らが口をそろえていうのは、「フセインはインテリキ。ブッシュはドストエフスキーなんか絶対に読んでないぞ」。政治家の愛読書については「文藝春秋」3月号で読んだ話が興味深かった（磯田道史「平成の宰相論 高杉晋作の呪縛」）。日本の政治家はみな歴史小説ファン。小泉はじめ菅直人も安倍晋三も、池宮彰一郎「高杉晋作」が愛読書という。与野党政治家とも、「いにしへの為政者」ではなく、「いにしへの反逆児」に自らを重ねているらしいのだ。例外は小沢一郎で大久保利通ファンというもおかしかったが、平成の政治家には自分が国家権力だという意識が薄れているのではないかと著者はいう。岸、佐藤、中曽根らの世代は少なくとも歴史小説ではなく歴史の「生証言」を読んでいたと、政治家に絶大な支持層をもつ作家で、もうひとり欠かさないのは司馬遼太郎だ。政治家は歴史をつくるのが商売だから歴史に興味を持つのである。でも、司馬史観は物語に加工された歴史。『坂の上の雲』の感覚で戦争が準備されている可能性もあるかと思うとぞっとしない。真偽のほどは不明だが、愛読書を問われたブッシュは「新聞」と答えたそう。選挙公報にも候補者の愛読書を書かせる欄を設けたらどうか。学歴なんかより参考になるんじゃないか。ま、それなら彼らは「愛読書詐称」もしかねないけどな。（洗）

若者たちの危険な性のゲーム

「ドリマーズ」

ギルバート・アデア作

パリの「シネマテーク」は映画マニアにとって侵すべからざる聖域である。事務局長のアンドリー・ラングロワは、無声映画から西部劇、ミュージカル、フィルム・ノワールと世界中の古い映画を公開し続けた伝説的人物だが、一九六八年初頭、彼が突然解任されたことに怒り、シネマテークの反乱が始まった。

この小説の主人公、十八歳のアメリカ人留学生マシューは、そのシネマテークで双子の兄妹テオとイザベラに出会う。美しく奇矯な双子に強く惹かれたマシューは、両親が田舎へ出かけたあとの彼らのアパートマニアで共同生活を始める。一人が映画の一場面を演じ、他の二人がその題名と監督を当てるゲームに興ずるうちに、三人の間にはエロティックな関係が生まれた。街頭で吹き荒ぶ五月革命の嵐をよそに、彼らは危険な性のゲームを続けるが……。



監督 ベルナルド・ベルトルッチ
7月31日よりシネスイツチ銀座 新宿武蔵野館 シネ・リーブル池袋他にてロードショー
配給 日本ヘラルド映画

月革命の嵐をよそに、彼らは危険な性のゲームを続けるが……。鬼才B・ベルトルッチにより映画化された鮮烈で哀切な青春小説である。
池田栄一訳 四六判 一八二頁
定価一八九〇円(本体一八〇〇円)

子供の世界に帰ろう!

「ノリーのおわらない物語」

ニコルソン・ベイカー[作]



『中二階』や『もしもし』、『フェルマー』など、日常の身の回り品やセックスについての超微細な観察と描写でアメリカ小説にまつたく新しい世界をもたらし、ニコルソン・ベイカーが、今度はこの子供の世界に入りこみ、これまで誰も書けなかった楽しく可愛らしい少女の生活を生きて描く。

主人公のノリーは九歳のアメリカ人の女の子だが、両親と弟と一緒にイギリスの小さな町に引っ越してきて、その小学校に入った。お話はこのノリーの視点で、彼女の学校生活を中心に語られる。アメリカとは

違う授業風景や友達づきあいがとても細かに報告されるが、ノリーの使う単語はいかに子供らしいおかしな間違っていてもいい。ノリーは正義感が強く、いじめにあっている女の子を必死でかばったりするが、いっつぱ彼女はお話を創るのが大好きで、奇天烈な物語をたくさん書いて家族やお人形に読んでかきかせる(もちろんそこにも言葉の間違いはいっぱい)。

かつて子供だったすべての読者は学校や家庭でのノリーのはてしなくおしゃべりを聞きながら、ああ自分もこうだったな、と笑いながらうなずいてしまつことだろう。

永遠の子どもたちのファンタジー

「ポリブル」とんがり耳の冒険者たち

マイケル・デ・ララベティ[作]



舞台は近未来、ロンドンの闇を支配する「ポリブル」という名の子どもたちがいる。親と別れ、学校にも通わず、空き家に住むが、ただの浮浪児と違うのは、耳がとがっていて、いつまでも大人にならないことだ。

とりあえず手を結んで立ち向かう。ポリブルは公園に侵入してきたランブルを生け捕りにしたのを機に「大ランブル狩り」の遠征隊を組織する。ロンドンの各地区から選ばれた少年六人、少女二人の八人が、パチンコや槍の激しい訓練を受け、想像を絶する血戦へと旅立つ……。

ポリブルはロンドンの地区ごとに徒党を組んでいて、ふだんは仲が悪い。でも最大の敵、ソウ鼻の怪物ネズミ「ランブル」と戦うときには、

か打ち解け、助け合い、困難な道のりを進むが、またすぐに仲間割れをしてしまう……。ポリブルを待つのは生か死か? 友情が裏切りか? 激しい戦闘シーンと手に汗握るストーリー、ユーモアと現代へのシニカルな批評性が評価され、親から子どもへ、欧米で熱狂的な愛読者を生んでいる。超ロングセラー本だ。
木下哲夫訳 四六判 三二〇頁
定価一九〇〇円(本体一八〇〇円)

シュルレアリストたちの討議録

「性についての探究」(新装版)

アンドレ・ブルトン[編]

アンドレ・ブルトンの残した草稿から、一九二〇年代に彼の主導のもと、若き日のシュルレアリストたちが集い、自身の「性」について赤裸々に語り合った討議録が発見された。本書はその記録全体を活字に起こしたものであり、作品を通して以上に、シュルレアリストたちの生々しい姿が至近でうかがえて興味深い。



監督 アラン・ルドルフ
8月21日より銀座シネパトス他全国順次公開
配給 アルバートロス・フィルム

性的に示すとおり、成熟の年齢に達する以前のシュルレアリスムが、特異で強烈な複数の「声」が飛び交う「場」であったという事実が、この記録から鮮明に伝わってくる。本書が、貴重な一級資料たるゆえんである。
映画『セックス調査団』原作
野崎敬訳 四六判 二六〇頁
定価一七三〇円(本体一六〇〇円)

白水Uブックス147 「イルカの歌」

カレン・ヘズ作

「海がさざやいている。わたしはみんながいるほうに向かって泳ぎだす。追いつくと、輪のなかに入られてもらい、またみんなで輪になる。イルカたちはうかびあがり、潮を吹き、片目を閉じたまま、寝ほけまなこで、ゆったり泳ぐ。」

ラと名づけられた少女は女性科学者ベック教授のほうと人間に戻る訓練を始める。助手のサンディやベック先生の息子ジャスティンに囲まれ、ミラは少しずつ人間に帰っていく。新しい言葉を覚える喜び、人を好きになる喜び。だがミラの心からは、自由で広々とした海とイルカの仲間達への思いが消えない。全米図書館協会ベストブックほか数々の栄誉にと海で暮らしてきたその少女はある日、人間に発見輝く、せつないほど美しい物語。金原瑞人訳
新書判 二〇四頁 定価九四五円(本体九〇〇円)

白水Uブックス148 「死んでいる」

ジム・クレイス作

撲殺されて、砂丘に横たわるカプトルは動物学者の夫婦。少しだけ生き長らえた夫は、かろうじて手を伸ばし、妻の脚にそっと触れていた……。

川上弘美氏は「死の本質に近いものをこの小説はとらえ得たのではないか」(『朝日新聞』書評)と評した。全米批評家協会賞を受賞。ニューヨークタイムズ年間最優秀作品にも選ばれた。驚異の問題作!
渡辺佐智訳 新書判 二五八頁 定価九九八円(本体九五〇円)

白水Uブックス149 「戦場の一年」

エミリオ・ルッス作

第一次大戦のさなか、オーストリア国境のイタリア軍は、はてしない塹壕戦を戦っていた。兵士はつらい日々を必死に耐え、いつか戦争が終わり、故郷に帰れる日を楽しみにしていた。しかし戦局は動く気配もなく、無能な將軍の無謀な作戦で兵士は次々に倒れていった。はじめは祖国イタリアの統一のために戦っていた主人公もいつしかこの戦争の真の姿に気づき、悲惨な戦いを強いられる部下と無能な上官との間の葛藤に苦しむ。しかしながら、本書は

そうした戦争の悲惨さのみを描いたものではない。無謀な作戦とは知りながらも、使命感に燃え、勇敢に戦闘に立ち向かう兵士たちの姿や恐怖心からこぼれ出る人間性、無謀な作戦で兵士は次々に倒れていった。はじめは祖国イタリアの統一のために戦っていた主人公もいつしかこの戦争の真の姿に気づき、悲惨な戦いを強いられる部下と無能な上官との間の葛藤に苦しむ。しかしながら、本書は体九五〇円)

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

カントの宗教哲学

シユヴァイツァー
齋藤義一、上田照照ノ訳
宗教哲学の根本概念「神」「自由」「魂の不死」をカントの三大批判書のなかに探った著者最初期の労作。「倫理的神秘主義」の立場からカントの宗教哲学思想の展開を跡づけ、その真髄に迫る。
各5460円

個人と社会

人と人びと
オルテガ
アンセルモ・マタイス、佐々木孝ノ訳
歴史の中で推進力として働く「慣習」の力をこに、社会的なるものを人間的生についての形而上学の中に組み入れ、個人と社会との独特の現象を見出すとした、不朽のメッセージ。
3780円

デカダンスの想像力

ジャン・ピエロ
渡辺義愛ノ訳
神話、伝説、夢、麻薬……ロマン主義を源としシュルレアリスムを準備したデカダンスの想像力。フランス19世紀末を特徴づける世界観や美学を解き明かす名著。
5880円

風景の詩学

富士川義之
現代英米文学の様々な局面を、風景志向という視点から論じたユニークな文学エッセイ。ワーズワス、バイターからパウンド、ナボコフ、ベケットなどの見直しに迫る前衛的な試み。
4410円

書物復権

2004年8社共同復刊
表示価格には5%の消費税が含まれています。

「悪魔の文化史」

ジョルジュ・ミユロ著

変幻自在で軽やかな肉体をもち、空中に住むサタン。悪魔は、いまも生きつづけている！ そのイメージの起源は、聖書が誕生するよりもはるか昔のパピロニア、エジプトにまで遡るといふ。十三世紀の神学者はその人数について議論を重ねたとまでいわれるし、十六世紀からの魔女狩りや悪魔被いを経て現代に至っては、ひとつのイデオロギーとしてのサタニズムが受け入れられている。

本書は、神や権力に対する抵抗のシンボルとしての「悪魔四千年の歴史」を詳解する。そして、キリスト教が原初から抱えているパドックスと、悪魔的なこととがらに対してきわめて敏感な西洋社会とを浮き彫りにしてゆく。文学・映画・音楽などの親しみやすい切り口からも語る、悪魔史入門の決定版だ。

平野隆文訳 新書判 一九六頁 定価九九九円(本体九五二円)

「中欧論」

帝国からEUへ

欧州の人びとにとつては「汎ゲルマン主義」を想起させる言葉、中欧その境界線は曖昧で時代によって変化してきた。また、その意味についてはフランス革命をはじめベルリンの壁崩壊や中部ヨーロッパ諸国の解放など、社会の変革のたびに議論されてきた。

本書は、中欧の思想的源泉としての神聖ローマ帝国を、その解釈と評価の側面から辿り、もう一つの柱としてのハプスブルク帝国を、民族共存のモデルという観点から考察する。中欧の捉え方をさまざまな立場から詳解し、それが本当に意味するところは何かを探りながら、ヨーロッパの内奥へと迫ってゆく。EU加盟国が二五か国となつた今日において、「欧州の仕組み」を考えるための地政学である。

田口晃、板橋拓己訳 新書判 一七〇頁 定価九九九円(本体九五二円) 7月下旬発売

語学書新刊コーナー

「フランス語を12の3」

内藤陽哉、玉田健二[著]

基礎編全36課(最初級文法を噛んでふくめるように丁寧に説明。理解を確実にするための問題は考え方の道筋をピエロ君がガイドします)・発展編全18課(一段上を目指す方々に中級への橋渡し事項を基礎編同様やさしく解説)・辞書編(基本語集は初心者もなじめるカナ発音付)の三部からなるオール・イン・ワン入門書。基礎も応用も単語(約1700語)も動詞活用表も、問題集や解法のナビゲーションもみーんな入ってます。今回CDも付いて言うことなし。学習の補いや授業の補習に、また断固独習派に好適です。再チャレンジなさる方も大歓迎。

A5変型 244頁 定価2625円(本体2500円)

「あなたにもできるフランス語通訳ガイド」

滑川明彦[著]

通訳試験の案内から、反射神経を鍛える基礎トレーニング、意外に知らない日本の地理と歴史、生活と文化の知識と表現、職業名と省庁名、世界の国名から衣食住の語彙集まで、もりだくさんのロングセラー最新版。

通訳ガイド試験最新問題(平成11年度~平成15年度)と解答付き。日本語・フランス語ともに収録した反復練習用別売テープ(各年版共通)あり。ラボ教材にも最適です。

四六判 254頁 定価2730円(本体2600円) 別売力セット(90分2本)定価3990円(本体3800円)

韓国ブームにおさえておきたい.....白水社の韓国関連書

コスモス朝和辞典(第2版)



菅野裕臣[他編] 見出し語約1万8千。発音は記号とカナの併記。豊富な例文。南北の綴り・語義の違いも明記。韓国新正書法完全対応。B6変型/1053頁 定価3885円(本体3700円) 別売力セット定価8883円(本体8460円)



書いて覚える初級朝鮮語 高島淑郎[著] (CD付・改訂版) たくさん練習問題をこなしながら朝鮮語(韓国語)の基礎を学習。 [2色刷] B5判/140頁 定価2310円(本体2200円)



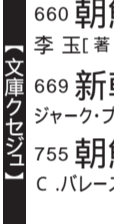
CDエクスプレス朝鮮語 早川嘉春[著] (CD付) 速く着実に「読み・書き・話す」ための基礎がマスターできる入門書。 [2色刷] A5判/163頁 定価1890円(本体1800円)



韓国語のかたち 増田忠幸[著] (シングルCD付) クイズや写真でとことん楽しみながら街角の言葉を読み解いていく! B6変型/111頁 定価1365円(本体1300円)



ことたび韓国語 長谷川由起子[著] (CD付) すぐに使える旅の会話シリーズ。初めての国の1人歩きをしっかりとサポート。 [2色刷] A5変型/142頁 定価1575円(本体1500円)



朝鮮史 660 李 玉[著] 金容権[訳] 669 新朝鮮事情 ジャーク・ブズ=マサビユオ[著] 菊池一雅、北川光児[訳] 755 朝鮮半島を見る基礎知識 C.バレーズ、李顕明、李玉、M.オランジュ[著] 金容権[訳] 各新書判/定価999円(本体951円)



ベストセラーの入門シリーズ《エクスプレス》にCDが付いた! 速く着実に「読み・書き・話す」ための基礎がマスターできると大好評。語学の白水社が贈る、入門書の決定版!

「CDエクスプレス ビルマ語」

加藤昌彦[著]

A5判 182頁 定価3150円(本体3000円)

「CDエクスプレス ベンガル語」

町田和彦、丹羽京子[著]

A5判 163頁 定価3045円(本体2900円)

編集者

もなくなった。話題も相手の方とこちらとで以前はほとんどかみ合わなかったのが、最近では好きな音楽やマンガの話も共有できるようになった。執筆者のみなさまの年齢が自分と大差ない、という状況はとっても気分がラクでよいものである。しかもこのところ、十以上も年下の著者とやりとりすることなどもあり、ワカモノのエキスを取り入れる機会もできて、まだまだダイジョブだな、という具合に生きていく。(す)

営 業 部

先頃小社より刊行された『西域探検紀行選集全6冊』の読み方は「サイキキ」「セイキキ」とどちらが正しいのでしょうか。「東西」は「トウザイ」「西北」は「セイホク」と読みますから、どちらもありえそうです。「セイ」と「サイ」の違いは何かと調べてみますと、「セイ」は漢音「サイ」は呉音ですので、中国史の用語では「セイ」が一般的で、仏教用語などでは「サイ」が優勢なようです。ちなみに、本選集は「サイキキ」と読みます。ところで大谷探検隊を除くと、本選集

【お願】

住所表記が変更になりました。御名前、新住所・旧住所、お届けいたしております本紙のお客さまコードをお知らせください。

本の十字路

このころ以前にも増してことばを省略するようになつた気がする。初めて聞いたも文脈で案外わかるものもあつて、トリセツ、キヨブタなどはバランスよく(?)略されているせいか理解可能。人名をちぢめて愛称にすることはあつたが(アンツル、クボマン、アラカン、パンツマ……)本や映画などのタイトルを短くすることも昔からあつたのだから。記憶にあるのはせいぜい「戦メリ」や「ストバラ」(「ザ

黒田龍之助の 語学書書評



「ヒンディー語のかたち」

「言葉のかたち」シリーズには二つのアプローチ方法がある。最新刊「ヒンディー語のかたち」をもとにこれを探っていく。まず、興味を持つこと。ヒンディー語は日本の日常生活とまったく関係ないように思われるかもしれないが、気を付けて観察してみると文字は面白いところに隠れている。たとえば行きつけのカレー屋にはヒンディー語らしきもので書いたプレートが店内に飾ってあり、わたしは長年これが気になつている。今年五月に行われたインドの総選挙を受けて、選挙結果を新聞で読むインド市民、なんていう報道写真が紹介されたりすると、その新聞の文字が目にと留まる。

そこで「ヒンディー語のかたち」を手取る。七ページに「子供用の文字練習帳より」という図版があつて、そうそう、これが知りたいんだよね、と確認する。ページをめくって九ページには、ヒンディー語のナーガリー文字による五十音表がある。ここからアプローチ法が分かる。まず、全体をすばやく見渡す方法。五十音表にさつと目を通し、名前の書き方、ヒンディー語の日本語図をざつと眺め、さらに第二章「文字に慣れよう」以降をざつと読んでいく。どこを開いてもイラストや図版が満載なので、最後まで楽しく「ヒンディー語気分」に浸ることが出来る。

しかし、別の方法もある。まず、ナーガリー文字五十音表からしばらく目を離さない。縦横に万遍なく目を配り、文字のかたち一つ一つを比べていく。そのあとで、今度は十一ページの「五十音表・練習」を開いて、空欄を頭の中で埋めていく。完璧主義になることはない。はじめは分からないことも、あとで詳しく解説されている。とにかく文字を見つめる時間をなるべく長くして、ゆつくりと進む。わたしは書評を書く都合上、第一の方法でグングンと読み進んでしまったのだが、途中から惜しくなってきた。もっとゆつくり楽しめばよかった。そこで第四章「読んでみよう」を推して「は」とつておいて、今度は第二の方法で、第一章から読み直しているところである。いまわたしの枕元には、「このヒンディー語のかたち」と、チェスの教室1さあ、チェスをはじめよう(白水社、絶版だけれどもいい本)が並んでいて、それぞれの練習問題を少しずつやるのが寝る前の日課となつている。(筆者 明治大学理字学部助教)

『ヒンディー語のかたち』



本書は自分の名前をヒンディー語の文字で書くことから始まります。習得がむずかしいとされるヒンディー語の文字を、クイズや写真をふんだんに盛り込みながら、楽しみながら読み解いていきます。

小磯千尋著 B6変型/111頁 定価1365円(本体1300円) 【シングルCD付】